国際交流・韓国

International Exchange - South Korea

「百済」ってどんな国？

太宰府市国際交流員　金辛泫（キム シンヒョン）

太宰府市の姉妹都市である韓国・扶餘（プヨ）郡。ここは、かつて百済が最後に都を置いた「百済の古都」です。

「百済」と聞いて、どんな国を思い浮かべますか？　日本では、古代に朝鮮半島から仏教やさまざまな文化が伝わった歴史の中で、その名を知る人も多いでしょう。しかし、百済がどのような国だったのか、実際の風景を思い浮かべるのは少し難しいかもしれません。

百済は、紀元前18年から660年まで、約700年にわたって朝鮮半島に存在した国です。高句麗、新羅とともに「三国時代」を築き、その中でも百済は、豊かな文化と優れた技術を持つ国として知られていました。

538年、百済は都を扶餘へ移しました。新しい都は、王宮や寺院などを計画的に配置して整えられた都市でした。整然とした街の中に、自然と建築、そして文化が調和していたのです。そこには、華やかさだけを求めるのではなく、秩序と調和を大切にした百済の美意識が表れています。

こうした百済の美意識を表す言葉として、よく知られているのが『三国史記』に記された「儉而不陋、華而不侈（倹而不陋（ゴムイプルル）、華而不侈（ファイプルチ）：倹約的でありながら粗末ではなく、華やかでありながら贅沢ではない）」です。もともとは百済の宮殿について記された言葉ですが、現在では、華やかさと質素さ、秩序と調和を兼ね備えた百済の美意識を象徴する言葉として広く知られています。

百済の歴史と文化が、今も息づいている扶餘郡。ぜひ実際にこの地を訪れ、百済の古都に息づく歴史と文化を、あなた自身の目で感じてみてください。



季節の生け花

太宰府市華道連盟



篠原（しのはら）　静子（しずこ）　池坊

花材：松、つるうめもどき、ケイトウ ほか

つれづれ

太宰府短歌会

涼風を誘うはずの風鈴も
茹だる暑さに微動だにせず
東ヶ丘／西木ミヤ子

爺ちゃんボク来たよと言って仏壇に
手合わす五才微笑む遺影
大佐野台／宮崎フミ

友逝きて月を重ねり友想ひ
大き花瓶に秋桜を挿す
湯の谷／山﨑八重子

人間を超える速さで駆け抜ける
ＡＩロボットに未来の危ふさ
五条／山田乃ぞみ

太宰府俳句会

持永　真理子　選

盂蘭盆（うらぼん）に入りて法師蝉鳴きわたる
天拝山麓の道はもう秋
春日市／山本　憲一

手に馴染む時代遅れの秋日傘
連歌屋／吉嗣のり子

もしかして引越し好きは渡り鳥
五条／兼田和加子

飛梅句会

介弘　紀子　選

帰り来るナビは正常渡り鳥
高雄／西元　治雄

鬼蜻蜓（おにやんま）号令響くグラウンド
朝倉郡／高尾　有子

渡り鳥九寨溝（きゅうさいこう）に影映し
馬場／今長谷久子

鬼灯の中に秘め事閉ぢ込めて
青葉台／本山　晴子

しんとした施設の零時夜食摂る
向佐野／内田　典子

夜食とり絆深めし職場かな
星ヶ丘／江里口幸生

鬼灯を鳴らし遠き日引き寄する
高雄台／川路　泰子

三世代夢語り合ふ夜食かな
福岡市／工藤　友子

宝満句会

菅井　久美子　選

朝露に溶け出してゐる山の色
観世音寺／野田　杉子

白露の畦の近道ランドセル
長浦台／徳賀美智子

虫喰ひの葉になぞりをる今朝の露
高雄台／荒島由美子

露の世を揃ひて向ふ卒寿かな
筑紫野市／名本　剛

露の玉吹かれて風となりゆけり
青葉台／平野　香

都久志てんじん句会

佐々木　甘露子　選

温もりの残る骨壺つくつくし
福岡市／宮津英里子

余生とは欲張らざるもの法師蝉
高雄／福島久美子

夏の果て被爆手帳はもの言わず
青葉台／塩飽たか子

退院の身に新鮮な草いきれ
福岡市／北川朴洋子

山からの風を甘露に葡萄園
青葉台／彦坂　正孚

太宰府川柳倶楽部

小池　一恵　選

腹抱え転げた頃に戻りたい
五条／安枝　昭雄

竹割った気性大かた損をする
松川／山根　清

「添いとげようね」返事怖くていい出せぬ
通古賀／山本　征児

紆余曲折老いて夫婦は丸く生き
二日市／吉田　敬子

初孫にすくすく伸びる竹のごと
坂本／森部　護